

豊明市文化財保護委員会会議録

日時：平成31年4月25日（木）午前9時30分から

場所：豊明市役所東館3階 教育委員会室

出席者：浅井委員、三浦委員、成田委員、佐野委員、鈴木委員、近藤委員、岡村委員、永井委員

事務局：小串教育部長、深草生涯学習課長、岸田主査、神谷社会教育指導員

傍聴人：なし

1 委嘱状交付

2 教育長挨拶

- (1) 委員長の選出について
浅井常典委員を選出
- (2) 副委員長の選出について
委員長の指名により佐野委員を副委員長とする。

3 議題

- (1) 平成30年度 文化財保護事業報告について
平成31年度 文化財保護委員会事業計画(案)について
 - ・唐竹小学校跡施設活用について団体代表者が集まる会議を開き市の施設として活用できるようにするとよい。これにより市民にも浸透し、関心をもってもらうことができる。
→複合体として考えている。担当部署とも話をしていきたい（課長）。
→市のソフト部門に入って話をしていく（部長）。
 - ・民具の整理について歴史研究会と文化財保護委員会の役割を理解した上で連携していくことが必要である。廃棄するにあたっては専門家の意見を聞く必要がある。
→7月に民具、土器を双峰小から移動する。民具整理の報告については6月下旬頃に文化財保護委員会を開催する。
- (2) ナガバノイシモチソウ・大狭間湿地の一般公開について
 - ・ナガバノイシモチソウの当番で浅井委員の都合がつかない場合は極力、鈴木委員が出席し、過去の植生の課程について触れるようにするとよい。
- (3) 視察研修について
 - ・10月15日(火)に今川義元公ゆかりの地である静岡市（駿府城・臨濟寺）を視察し、今後の展示等に活かしていく。駿府城天守台の発掘調査現場を見学し、担当者からの話を聞く機会をつくる。
- (4) 豊明のナガバノイシモチソウの保全計画策定について
 - ・保全計画策定に向けた審議会の日程については県・文化庁とも調整中であり、決まり次第連絡する。
流れとしては文化庁調査官・県文化財保護室担当者の同席により、午前中にナガバノイシモチソウ自生地の現地調査を行い、午後に保全計画について協議を行う。
 - ・部会メンバーについては浅井委員長、三浦委員を選任。他の学識経験者として愛知教育大学 渡邊教授に入らせていただくことで合意を得る。

(5) 文化財の市指定について

両村塾について市の指定史跡とすることについて事務局より提案

- ・家塾教育が人材の養成という面を通して近代化に果たした意義は極めて大きく、次の時代に豊明のため働いた人を多く輩出している。
- ・刈谷藩主への進講や天誅組の大和義挙の中心人物（松本奎堂、田宮如雲、深見篤慶等）が門下として在籍していた経緯があり近隣市町への影響や関心は高く、尾三地方における松下村塾に擬する評価がされている。
- ・伊藤両村ゆかりの地として周辺には菩提寺である禅源寺や二村山などがあり、地元小学校等における地域学習の拠点となる。
→市指定に向けた検証を進めていく。

4 その他

○平成31年度歴民企画展

- ・「豊明の歴史をふりかえる」を11月の期間、豊明市図書館で開催する。原始から主だったことを年表に記し、関連した内容について民具や絵図を用いて展示する。これを機に業者にパネル化したものを作成してもらい、新資料室の展示に活用していく。
- ・豊明市史が18年発行の総集編までしか出来ていないので、その後の出来事として市の方で何かあれば、資料を出してほしい。
- ・市民参加型で体験学習的なものにするとよい。

○平成31年度広報特別号掲載記事について

- ・鈴木委員が桶狭間の戦いに関する継続の記事を作成し、8月号、9月号に載せる。桶狭間の戦いの流れについて、どうして戦いに至ったか小中学生が見ても分かるような内容で記述する。
- ・別枠で戦人塚整備工事が完成した記事を書けるとよい。

次回文化財保護委員会 令和元年6月下旬（予定）